

平成31年 第1回  
京田辺市議会定例会

一般質問(質問項目・要旨)

傍聴用

京田辺市議会

### 3月定例会一般質問日程

月 日	通告順位	議 員 名	ページ
2月28日 (木)	1	つぎ た のり こ <b>次 田 典 子</b> (無 会 派)	1
	2	まつ むら ひろ し <b>松 村 博 司</b> (一 新 会)	3
	3	す ず き や す お <b>鈴 木 康 夫</b> (一 新 会)	4
	4	か わ も と た か し <b>河 本 隆 志</b> (みらい京田辺)	6
	5	こ ば や し き よ し <b>小 林 喜 代 司</b> (みらい京田辺)	8
3月1日 (金)	6	な ん ぶ と し こ <b>南 部 登 志 子</b> (無 会 派)	9
	7	よ こ や ま え い じ <b>横 山 榮 二</b> (日本共産党京田辺市議会議員団)	10
	8	お か も と り ょ う い ち <b>岡 本 亮 一</b> (日本共産党京田辺市議会議員団)	12
	9	か わ だ み ほ <b>河 田 美 穂</b> (公 明 党)	14

月 日	通告順位	議 員 名	ページ
3月4日 (月)	10	う え だ た け し 上 田 毅 (無 会 派)	15
	11	あ お き こ う じ ろ う 青 木 綱 次 郎 (日本共産党京田辺市議会議員団)	16
	12	ま す と み り つ こ 増 富 理 津 子 (日本共産党京田辺市議会議員団)	17
	13	に し は た と し ひ こ 西 畑 利 彦 (日本共産党京田辺市議会議員団)	19

※質問時間は、質問答弁併せて60分以内としています。

<p><b>1 夜間中学校設置にむけて</b></p>
<p>(1) ニーズ調査の目的と成果について。                  (2) 不登校生等に周知をすべきだ。                  (3) 教育委員会における夜間中学についてどのように議論しているのか。                  (4) 今後、京都府教委とどのように協議しすすめていくのか。</p>
<p><b>2 北陸新幹線駅誘致問題</b></p>
<p>(1) 市の負担額を示せ。                  (2) 経済効果等の試算を示せ。</p>
<p><b>3 枚方市とのごみ処理広域化問題</b></p>
<p>(1) 市単独の負担額が概算 26 億円と示されている。何故枚方市にも負担を要求しないのか。                  (2) 今後、市単独の負担額が増額の可能性もあるが、市はそれでも単独炉より広域の方が負担が少ないと考えるなら根拠を示せ。                  (3) 建設予定地が京都府のハザードマップで土砂災害警戒区域となっている。何故その場所に固執するのか。</p>
<p><b>4 公共施設の耐震改修について</b></p>
<p>(1) 市内公共施設における耐震改修の進捗状況と今後の予定。                  (2) 幼稚園・保育所については特に急ぐべきだ。</p>
<p><b>5 公共交通の安全と市民サービスの向上について</b></p>

次田 典子

- (1) 市内鉄道駅における無人化問題やトイレの未設置の解消、ホームの安全策。
- (2) 路線バスを市民の利用しやすいものに見直すべきだ。

<p>1 石井市政3期12年間、首長としてめざした京田辺のまちづくりができたのか、その評価とこれからの京田辺への期待について</p>
<p>2 「子育てしやすいまちナンバーワン」を目指したまちづくりの成果について</p>
<p>3 危機管理体制の充実について、広範囲における取り組みを進められている。計画されている大規模な防災広場や、市BCP計画策定には長期的な取り組みが必要と考える。進捗及び今後の方向性についての考えは</p>
<p>4 議会における常任委員会での所管事務調査の取り組み及び、提言について市は基より国・府への要望や要請の取り扱いについて問う</p>
<p>(1) 京都府施行の防賀川改修事業の進捗状況について。</p> <p>(2) 都市計画道路の大住草内線の整備促進について。</p> <p>(3) 市道・道路の維持管理について。</p>

### 1 持続可能なコンパクトシティを望む

本市が取り組む大きな課題の一つであるコンパクトシティの実現について田辺中央北地区の複合施設に照準を絞り以下の点を問う。

- (1) 公共施設の設計、建設、維持管理・運営に民間活力を導入する（PFI など）考え、方針を問う。
- (2) 文化ホールについては、年間稼働日数に配慮した運営、維持管理が大切な要素と考えるが、その基本的なコンセプトを問う。
- (3) アクセス方法、手段についての基本的方針、考えを問う。
- (4) 取り込む機能、内容を問う。

### 2 北部地区に開業した大型施設の効果を問う

昨年が開業された、プロロジス、温浴施設&ビジネスホテル、モール街の期待されている効果、見通しを問う。

- (1) プロロジス、温浴施設についての税収見込みは予定どおり確保できそうか。
- (2) プロロジスによる雇用の確保は、期待通りできたか。
- (3) 深刻な交通渋滞や安全面、とりわけ通学路に面している、温浴施設&ビジネスホテル、モール街についての安全上等のトラブルは発生していないか。

### 3 自転車、バス交通の一層の振興を

- (1) 国交省が「世界に誇りうるナショナルサイクルルート」として今夏導入予定の優良自転車道認定制度に是非、チャレンジしてもらいたい。自転車交通を整備していく上での励みとなる。

- (2) 昨年から自転車保険加入義務化となっているが、通勤者、通学者の加入状況を問う。
- (3) 利用者の多い直Qバスが4月から京都まで500円から600円と20%の大幅値上げとなる。この際、かねてから市民からの根強い要望のある通勤、通学定期券導入を望む。



<p><b>1 障がい者支援について</b></p>
<p>(1) 最近、障がい児支援の放課後等デイサービスが増えてきているものの、さらに保護者のリフレッシュは必要であると考えます。障がい児のショートステイの設置、利用状況について市はどの程度把握しているのか。</p> <p>(2) 障がい児のショートステイ施設等を充実していく考えは。</p> <p>(3) 特別支援員の人員をさらに充実していく考えは。</p>
<p><b>2 子育て施策について</b></p>
<p>(1) 認可外保育等を利用する家庭を支援していく考えは。</p> <p>(2) 小規模保育を実施していく考えは。</p> <p>(3) 企業主導型保育を推進していく考えは。</p>
<p><b>3 消防力の強化について</b></p>
<p>装備の有効活用を図るためにも消防の広域化を進めていくべきと考えますが市の見解を問う。</p>
<p><b>4 税条例の改正について</b></p>
<p>所得税の寄附金控除の対象となる寄附金（学校法人、社会福祉法人、その他公益の増進に著しく寄与する法人などに対する一定の寄附金）を市民税にも条例改正によって拡充していくべきと考えますが、市の見解を問う。</p>
<p><b>5 予防接種について</b></p>
<p>(1) インフルエンザ予防接種助成の対象を広げていく考えは。</p>

河本 隆志

(2) おたふくかぜワクチン接種に対する助成を実施する考えは。

<p><b>1 JR片町線の整備について</b></p>
<p>(1) 複線化の見通しについて。                  (2) 北陸新幹線の新駅との乗り換え駅について。                  (3) 駅舎（ホーム）に待合室の設置について。                  (4) 田辺区稲葉付近の線路の騒音による整備について。</p>
<p><b>2 同志社大学京田辺キャンパスへの通学路の整備について</b></p>
<p>近鉄興戸駅からJR同志社前駅、府道八幡木津線までの間は同志社大学京田辺キャンパスが開校以来整備が行われていない。                  大学関係者や地元区、通学の学生さんからも整備を要望されているが市の考えについて。</p>
<p><b>3 安全、安心のまちづくりについて</b></p>
<p>(1) 住宅用火災警報器の設置、普及状況について。                  (2) 災害時の生活用水としての井戸の登録状況について。                  (3) 耐震構造の防火水槽の設置状況について。                  (4) 西日本豪雨でもため池の決壊が被害を増加したと報告されている。本市の農業用ため池の管理状況について。</p>
<p><b>4 農業に対する支援について</b></p>
<p>市の特産物である京都田辺茄子に続いて「えびいも」「九条ネギ」の生産が進められ栽培面積も増加している。生産拡大や収穫の省力化にむけて各種の施策を進められているが、市の支援について。（九条ネギの施設整備、えびいもの機械収穫等に対する支援について）</p>

**1 教育委員会の課題について**

- (1) 前回、中学校給食施設、文化ホール、南部住民センターの建設等の大事業について、優先順位を決めて計画を進めていくべきと指摘した。教育委員会はすべて優先順位 1 位と答弁されたが、現実的に全ての事業を同時に進めていくことは、財政的にも職員の体制的にも不可能と考える。再度、教育委員会の認識と見解を問う。
- (2) 発達障がいの早期発見とその障がいに合わせた適切な教育を実施していくことは、発達障がいを抱えたご本人のみならず、ご家族のその後の人生を大きく左右する。現在の取り組み状況と今後の課題について問う。
- (3) アレルギーを抱える児童・生徒への対応について問う。

**2 中山間地域の課題について**

現在、打田・高船地区の数か所で、土砂を採取する事業が進められているが、山を切り開くことの影響（自然、農業、天候、災害）について市の認識を問う。また、この事業により交通問題が発生しているが、市の対応について問う。

**3 職員・議員の旅費の取り扱いについて**

- (1) 現在、旅費のうち宿泊料は、定められた金額の渡し切りとなっている。実費支給にすべきと考えるが、監査委員の見解を問う。
- (2) 議会の各委員会視察では、議員と随行職員の旅費は、交通費や宿泊料と日当を合算した上で等分に精算されているが、宿泊費や日当が異なるため、等分に精算されることは適切ではないと考える。監査委員の見解を問う。

### 1 国民健康保険について

- (1) アベノミクスの経済政策で「貧困と格差」が広がっている。実質賃金は下がり、年金が減らされ、家計消費が落ち込んでいる。国保世帯には所得が低い人が多い。このような状況の中で国保税の引き上げはすべきでない。一般会計から投入してでも引き下げの努力をすべき。
- (2) 国保は他の医療制度と比べても、保険料がいちばん高い。せめて「協会けんぽ」並みにするために国に対して1兆円の公費投入を要請するとともに、「均等割」の廃止を求めること。
- (3) 国保税の滞納世帯が多くあり、差押えが増えている。市として滞納者に寄り添い分納で納付できる制度を周知徹底していくことを求める。
- (4) 子育て世代の応援のためにも、子どもの「均等割」について市として独自軽減の実施を求める。

### 2 「原発ゼロの日本」を求め、再生可能エネルギーの普及促進を

- (1) 東京電力・福島第一原発事故から8年、どの世論調査でも、原発の再稼働反対は国民の多数になっている。原発輸出も軒並み頓挫している。再稼働反対、原発ゼロの日本を目指すべきと考えるが、その認識を問う。
- (2) 太陽光発電の普及をはかるためにも、補助制度の充実を。

### 3 留守家庭児童会（学童保育）の充実について

- (1) 学童保育のニーズに対応できる施設の充実を求める。
- (2) 学童保育を進めていく上で職員の確保について、待遇の改善を求める。
- (3) 学童保育で保護者の要求である延長保育を充実すること。

- (4) 留守家庭児童会支援員の人数は各学級2名を配置し、その身分は嘱託職員にすることを求める。

#### **4 市民参加の自治体を目指して**

- (1) 市民の声を市政に活かすためにも、地域で懇談会を開催すること。
- (2) パブリックコメントに市民の声が反映できるように、必要な改善を求める。
- (3) 市民協働のまちづくり（北陸新幹線、文化施設（複合型公共施設）など）への市民の参加はどう進めるのか市の考えは。

#### **5 地元の要求について**

- (1) 大住ヶ丘公園にトイレを設置し、公園の整備をすることを求める。
- (2) 汚水処理場跡地を住民が集える場にするために、地域住民を含めた対策会議の設置を求める。

## 1 後期高齢者医療制度について

政府は、75歳以上の後期高齢者医療の保険料を最大9割軽減する「特例措置の廃止」を決めた。また、同医療の窓口負担を1割から2割へ引き上げることも計画している。年金削減と消費税増税に加え、保険料まで値上げとなれば、高齢者の生活がさらに困難になることは明らかであり、命にもかかわる問題である。このことを踏まえて以下の点を問う。

- (1) 軽減特例廃止による被保険者への影響（対象者数・金額）について問う。
- (2) 軽減特例廃止について市長の認識は。また、国に対して軽減特例措置の継続を求めるよう意見表明すべき。
- (3) 短期保険証の交付について
  - ア 平成30年末の滞納被保険者数及び、短期保険証の交付者（6か月証・3か月証）、留め置き、差押えの件数は。
  - イ 留め置きにより保険証が手元になければ、安心して医療機関を受診できない。全ての被保険者に保険証が届くよう対応すべき。
- (4) 第2期保険事業実施計画について
  - ア 人間ドック費用助成の財源となる国からの長寿・健康増進事業（特別調整交付金）の交付基準が平成29年度から段階的に廃止されているが、その認識と被保険者に与える影響について問う。
  - イ 健康診査受診率向上に向けた取り組みと課題について問う。
  - ウ 歯科健康診査の実施を。

## 2 交通安全対策について

- (1) 同志社南交差点（三山木方向）に右折信号の設置を。

- (2) 山手幹線（同志社山手～精華町）、やすらぎ保育園前交差点を南進後すぐに2車線から1車線に車線数が減少する。そのため車両同士が接触事故を起こす恐れがある。車線減少を標識設置や路面標示などによりドライバーへ注意喚起し、直近の交差点までに車線改良等を行うことで事故防止を図るべき。
- (3) 同志社山手にある奥駒ヶ谷公園前の交差点に信号機の設置を。また、歩行者やドライバーから死角となる南田辺狛田中央線（山手幹線道路から西側）に設置されているガードレールの改善を求める。



### 1 教育問題について

- (1) 公立中学校の制服を、性別に関係なく選べるようにすべき。
- (2) 中学校昼食注文弁当の改善を。(教室まで届けられないか。昼食時間の延長など)
- (3) 中学校給食を早急に実現すべき。

### 2 命を守る対策について

- (1) 児童虐待防止対策の強化をすべき。(アンケートの実施・児相の全国共通ダイヤル「189」の周知徹底・学校、教育委員会、警察、弁護士などとの連携を強めるべき。不登校児童等の安否確認など)
- (2) 高齢者肺炎球菌定期接種の5年延長の周知徹底をすべき。市独自助成も続けるべき。
- (3) 風疹拡大防止のため、39才～56才の男性に抗体検査・予防接種が無料になる受診券発行を早急にすべき。  
そして今春から3年間原則無料化の周知徹底をすべき。

### 3 防災・減災対策について

- (1) 耐震シェルター・耐震ベッドの周知徹底と助成をすべき。
- (2) 家具転倒防止器具などへの助成と、高齢者、障がい者などへの設置助成もするべき。
- (3) 災害時、避難所となる体育館などにエアコン設置をすべき。

**1 仮称) 南部住民センター及び南部消防署について**

南部地域の方々より以前から望んでおられる南部住民センターの計画を、市長3期12年間務められ、計画のひとつも行おうとされなかった理由とはいったい何だったのか。

また南部地域市民の声をどう捉え、12年間経過したのか。

**2 打田区において開催したイルミネーションについて**

昨年、町興しとして打田区で有志によって行ったクリスマスイルミネーションについて、開催期間12月1日から25日までの25日間、来場人数7633人だった訳だが、市長としてどう捉えたか。

**3 市長を3期12年間努めての自己評価を**

市民目線での評価と市長の自己評価との比較をしたことはあるのでしょうか。

役所内そして議員間でも様々な声が聞こえているが、全てを総合しての自己評価の報告をして下さい。

### 1 防災情報の周知について

各種の災害発生時の防災情報の住民周知について、「ポケベル波」を利用した「防災ラジオ」を導入し、希望する各家庭に貸与する自治体の取り組みが進んでいる。本市でもこの「防災ラジオ」の導入を検討すべきと考えるが、市の見解を明らかにされたい。

### 2 小学生の受動喫煙防止策について

埼玉県熊谷市では、希望する小学4年生の児童を対象に「受動喫煙検診」を実施し、受動喫煙の影響を可視化することで成果をあげている。本市でも実施すべきと考えるが、市の見解を明らかにされたい。

### 3 手話言語条例の制定について

京都府議会で「言語としての手話の普及を進めるとともに聞こえに障害のある人となない人とが支え合う社会づくり条例」（手話言語条例）が制定されて一年が経つ。

- (1) 同府条例では、手話の普及などの分野で京都府が市町村と連携して取り組むことが示されているが、同条例にもとづく本市での取り組みについて明らかにされたい。
- (2) 本市でも手話言語条例を制定すべきと考えるが市の見解を問う。

### 4 JR大住駅へのエレベーター設置について

JR大住駅へのエレベーター設置について、現在の進捗状況と設置時期の見通しについて、明らかにされたい。

### 1 子育て支援について

- (1) 就学援助制度の項目の拡充と支給時期の改善を。保育所、幼稚園の来年度入所希望者の状況、また、保育所待機児童の除外規定にあてはまる子どもの人数と対応について問う。特に0、1、2歳児の入所希望者への施設整備も含めた対策が必要だと考えるが、市の考えを問う。
- (2) 政府は10月から、幼児教育・保育の無償化の実施に向けての事業を進めている。本市での影響と今後の見通しについて問う。
- (3) 大きな問題となっている子どもの虐待についての市の認識を問う。また、昨年に家庭児童相談室の体制強化を図っているが、市の現状について問う。

### 2 高齢者施策について

- (1) 一人暮らし世帯の増加について、現状と推移、課題とその対策を問う。
- (2) 高齢者向けの公共バスのバス代補助は、高齢者の経済的負担の軽減だけでなく、社会参加の促進や経済効果など様々な面で積極的な意義があると考えられる。高齢者向けバス代補助制度を導入すべきと考えるが市の見解を問う。
- (3) 介護認定期間の短縮、利用料の減免制度の拡大と制度の周知、ケアマネージャーの研修等について問う。

### 3 災害時の要配慮者の避難について

- (1) 災害時の指定避難所への避難が遠くて難しい高齢者などに地域の公民館への避難対応が必要であると考えられる。市の考えを問う。

- (2) 災害時の福祉避難所に予定されている施設での避難所運営訓練は実施されているのか。また指定避難所での医師や看護師、介護士等のマンパワーの確保はできているのか問う。
- (3) 災害時、特にわかりにくい専門用語でなく、在日外国人や子ども、誰でもわかりやすい「やさしい日本語」をパンフレットなどに採用してはどうか。

#### 4 安全で安心して利用できる道路や歩道の整備について

ベビーカーや子供、お年寄りが安心して、歩いて暮らせるためにも安全な歩道の整備が必要である。新田辺東住宅内のかまぼこ状になっている道路の整備は、調査中といわれ年数が過ぎてきている。住民の強い要望であり早期に整備計画を策定すべきである。本市の考えを問う。

**1 枚方市と広域で進めているごみ焼却場の建設・運営について**

- (1) 建設にかかる総事業費、並びに両市の費用負担について問う。
- (2) 焼却場の建設について、基本構想では両市のゴミ量割と市民に説明してきたが、敷地も造成も建設にかかる一体工事である。なぜ、本市が建設場所の用地・造成をすべて負担するのかその経緯を求める。また、粗造成の範囲を明確に示すこと。
- (3) 取付道路の整備について、基本構想では既存敷地での建設であり、取付道路は計上されていなかった。現計画では必要な道路であるが、これも焼却場建設にかかる一体事業である。なぜ、本市が費用負担すべきなのかその経緯を求める。
- (4) 下水道・水道・電力・通信施設の引き込みについて、当然、焼却場に必要な施設整備であるが本施設についても本市が全額負担する考えか問う。
- (5) 枚方市と広域で進めるごみ焼却場建設について環境影響評価結果や計画変更など全市民の税負担に関わることから全市民を対象に説明すべきと考える。本市の考えを問う。
- (6) 建設後の運営について、枚方市の人口減少により本市ゴミ量比率が高まると推測するが本市の考えを問う。また、点検・修繕等不稼働時に発生するごみ焼却は、枚方東部工場を使用するものと考えているが、この場合の費用負担はどのように考えているのか。本市の考えを問う。

**2 本市内で経済が循環できる事業の推進について**

- (1) 「普賢寺ふれあいの駅トイレ棟」への補助金について、補助金額の算定と決定根拠を問う。
- (2) 補助金支出にかかる必要書類、監査のあり方を問う。

- (3) トイレ棟の建設について、市内業者への見積依頼すら行わないことや契約に至らないという今回の事例に対し本市の認識を問う。また、1千万円を超える補助金は本市が積算し契約すべきである。
- (4) 本市として補助金の使途について、経済が循環できるよう条件整備なども含め、ガイドラインを設ける必要がある。本市の考えを問う。
- (5) 住環境にかかる道路・河川・施設の維持費を適切に確保し、その機能を回復すべきである。本市の考えを問う。

### **3 中学校給食の運営について**

- (1) 12月議会において、「センター方式による運営を軸に」との発言があったが、現時点での経緯も含め、本市の考えを問う。
- (2) また、1日も早い給食を実現するためには、自校調理方式を基本に親子方式なども含めた当面の対策と長期的な方式の2段階で整理すべきと考えるが本市の考えを問う。

### **4 地域猫対策について**

- (1) 苦情が多い野良猫を減少させるための本市の施策について問う。また、他の自治体で効果をあげている去勢・避妊手術費用の補助を求める。
- (2) 本市の「野良猫に餌を与えるな」の広報は動物愛護法に照らして正しい考えか。また、この施策は、野良猫を減少させる目的で地域猫活動を行う住民を否定するだけでなく、地域で無用な混乱が生じている実態をどのように把握しているかを問う。